

令和3年第9回教育委員会会議

- 1 日 時
令和3年6月30日（水）
開会 10時
閉会 11時01分
- 2 場 所
県庁行政庁舎 11階 1109会議室
- 3 出席者
徳田博教育長、新屋長二郎委員、新家久司委員、眞鍋知子委員、高野勝委員、
浅蔵一華委員
- 4 説明のため出席した職員
飯田重則教育次長、杉中達夫教育次長、塩田憲司教育次長、松田豊久教育次長兼
庶務課長、江尻祐子教育次長兼学校指導課長、岡橋勇侍教職員課長、清水茂生涯学
習課長、山下幸則文化財課長、居村吉記保健体育課長
- 5 議案件名及び採決の結果
議案第19号 令和4～6年度使用中学校用教科書（社会（歴史的分野））石川県
教科用図書選定資料について（原案可決）
議案第20号 令和4年度用一般図書選定資料について（原案可決）
議案第21号 石川県産業教育審議会委員の委嘱について（原案可決）
議案第22号 石川県社会教育委員の委嘱（任命）について（原案可決）
議案第23号 石川県生涯学習審議会委員の委嘱（任命）について（原案可決）
議案第24号 石川県立図書館協議会委員の委嘱（任命）について（原案可決）
- 6 報告事項
報告第1号 令和4年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況につ
いて
報告第2号 令和4年度石川県公立高等学校入学者選抜方法について
報告第3号 令和3年3月石川県公立高等学校卒業者の進路状況について
- 7 審議の概要
 - ・開会宣告
徳田教育長が開会を告げる。
 - ・会議の公開・非公開の決定
議案第19号及び議案第20号は教科書採択に関する案件のため、議案第21号、
議案第22号、議案第23号及び議案第24号は人事に関する案件のため地方教
育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項に基づき非公開とすることを、
全会一致で決定。

- ・ 質疑要旨
以下のとおり。

報告第1号 令和4年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況について（岡橋教職員課長説明）

本試験につきましては、去る5月6日から出願の受付を開始し、5月27日に締め切りました。志願状況について、その概要を報告させていただきます。お手元の資料24ページをご覧ください。

まず、1の教諭等についてであります。令和4年度の採用見込数については、前回の会議で報告しましたが、昨年度と同じ315人であり、これに対して、志願者総数は1,132人で、昨年度より52人減少し、全体の倍率は昨年度より0.2ポイント減の3.6倍となりました。

受験区別の状況でございますが、小学校教諭につきましては、140人の採用見込みのところ、356人の志願があり倍率は2.5倍、中・高等学校教諭につきましては、130人の採用見込みのところ、623人の志願があり倍率は4.8倍、特別支援学校教諭につきましては、小学部、中・高等部合わせて35人の採用見込みのところ、71人の志願があり、倍率は2.0倍となっております。養護教諭につきましては、10人の採用見込みのところ、82人の志願があり、倍率は8.2倍となっております。

なお、今年度から新設した教科「工業」における大学から推薦を受けた受験者を対象とした特別選考区分については、金沢工業大学から2名の志願があったところであります。

今年度の志願者総数は昨年度を52人下回りましたが、この52人の減を新卒者と既卒者に分けますと、内訳は、新卒者は2人減で昨年度とほぼ同じ、一方、既卒者は50人の減となったところであります。

次に、2の栄養教諭につきましては、上段の一般選考試験への志願者数は12人、下段の現職の学校栄養職員のうち、栄養教諭の免許状を持つ者の中から、栄養教諭に任用替えする特別選考への志願者数は、6人でありました。また、試験については教諭等、栄養教諭ともに7月17日、18日の両日に筆記試験および実技試験を、7月31日または8月1日に面接試験として模擬授業と個人面接を行うこととしております。今年度も、昨年同様、筆記試験会場を例年は2会場とするところを3会場とし、実技試験の受付時間の分散化などにより密を避けるとともに、検温や消毒など、新型コロナウイルス感染症の対策に十分配慮して、試験を実施してまいりたいと思っております。

【質疑】

（新屋委員）

小学校の教諭の倍率が下がってきて、全国的にも厳しい状況なのだろうと思えます。この先、採用見込み数が若干絞られていくにしても、そんなに大きな劇的な変化というのは考えづらいので、こういう状況が続いていくと思えます。倍率はともかくとして、新卒の数は一定程度志願があるようで、石川県でやっている師範塾もかなり定着していますから、少数でもしっかり鍛えて、採用した際には、立派に教壇に立つことができる、そういう方向でまた力を入れていただければいいかなと思えます。

(新家委員)

前年対比で志願者数がマイナス 52 人で、うち既卒者が 50 人というのは、これまでの傾向からすると多いのですか。

(岡橋教職員課長)

実は既卒者の減少については、今年に限ったことではなく、例年、既卒者の志願者の数は少しずつ減少してきているのが現状です。

(新家委員)

先ほど、新屋委員も言われたのですが、県の教員の話だけではなくて、いろいろな業界が、コロナの影響は除いて、人材不足になっているのも事実なのです。これだけずっと続いてくると、今まで以上の何か手を打たないと、なかなか優秀な人材の採用というのは難しいのかなという気がするのです。産業界の方も、最近、テレビコマーシャルを見ると、商品を売るためのコマーシャルではなくて人材確保のコマーシャルを皆さんやっています。私はこの場で言えることは何もありませんが、教育委員会の中でプロジェクトチームをつくって、教員確保についてどうしていったらいいのかなというのは、今までも真剣なものでしょうけれども、ちょっと考え方を変えたところも含めてやられた方がいいのではないかなという感想を持ちました。

(高野委員)

前回の会議で、募集の状況はどうなっているかという質問をしたのですが、そのときに非常に数が減っていたらどうしようかなという思いで質問したのですが、減ったのが既卒者の 50 人減で、今年 52 人減と大体同じですね。ということは、本当に努力されたのだなという思いでこの数字を見ました。そういう意味で、本当に大変だったなと推測されます。感想です。

(岡橋教職員課長)

今、新家委員、高野委員からご指摘ありましたように、われわれの方も受け身ではなく、これまで以上にアピールして志願者確保に努めてまいります。

(杉中教育次長)

志願者数が全国的に少し減少傾向にあるというのは本県も同じで、今減っているのですが、先ほど内訳を申しましたように、どちらが減っているかというと、新卒の教員になりたいという学生さんは毎年一定数いるのですが、どうしても既卒者、いわゆる昨年受験した人で不合格であって、もう一度受けようという方が、やはり一回駄目だったことを機に民間にいたり、他県にいたり、いろいろなことで再チャレンジ組がどんどん減ってきているという状況であるかなと思います。これはどこの県もそのような状況になっているのではないかなと思います。一方、新卒者は一定数いるということもあって、おかげさまで本県の場合、小学校の教員を育成している大学さんも私学を含めて結構あります。それらの方の中で、やはり教員になりたいという方が多く師範塾の方に来られて、師範塾の受講生の数は年々増えてきております。教員になって頑張りたいという学生さんが大変たくさん、月に 1 回ですけれど

定期的にきちんと通って勉強していらっしゃる。私も伺いましたが、学生同士が切磋琢磨して良い教員になろうと努力している姿を見ますと、そういった新卒の人のレベルというのは、師範塾がある前に比べれば大変上がっているのではないかなと思いますし、現実的に師範塾の合格者が全体の新卒者の中の8割超えであるということを見ても質が上がっているのだろうなと今のところ思っています。そのように少ない人数でも質の良い人を少しでも多く採用していきたいと思えます。

(徳田教育長)

ポスターを作るとか、あるいはチラシを作って配布するというのは当然必要ですが、もう少し他の県とは違ったPRの方法がないかということは、今、杉中次長が言ったように、少し考えていかなければならないと思います。また、大学4年に対して大学訪問するのではなく、大学1年生のとき、石川県の場合は非常に高等教育機関が多くて、特に教員養成していただいている大学というのは、国公立、あるいは私学でもたくさんあるので、少なくともそういったところに早い段階からアプローチをしていきます。高校段階からもアプローチしていますが、やはり大学に入ってから早め早めにアプローチしていくことと、今、師範塾の話がありましたが、量は少ないけれど質を高めていくということで、師範塾も来年10年目に入り、かなり評価されていて、他の県と比べても量は少ないけれども、入ってきた学生というのは非常に質が高く即戦力になるという評価も頂いています。量を確保すると同時に質も高めていきます。他の県もいろいろな知恵を絞っているんで、他の県の状況というのも調査をしながら、石川県でもまだ取り入れていないものは取り入れていって、来年に向けて戦略を考えていく必要があると思います。他の県も同じ悩みを抱えているので、他の県の悩みも共有しながら、どういうやり方がいいのかということを試行錯誤しながら考えていく必要があると思います。

また、先ほど説明がありましたが、工業の先生が少ないということで、大学推薦を頂ければ、筆記試験を免除するという制度を作らせていただいて、金沢工大さんが積極的に応募していただいて、お二人推薦を頂いたので、これについては面接試験により選考させていただくということで、そういう意味では数の少ない学科でこういったことを毎年繰り返していくことによって、厚みを出していきたいと思っております。

報告第2号 令和4年度石川県公立高等学校入学者選抜方法について（江尻教育次長兼学校指導課長説明）

はじめに、1. 推薦入学についてご説明します。まず（1）推薦入学実施校ですが、アに示しましたように、全日制の普通科で推薦を実施するのは9校であります。前年度と比べまして、松任高校が新たに追加されております。松任高校は前年度までは総合学科のみで推薦を実施しておりましたが、普通科においても、より志望の強い生徒を募集するため、推薦を実施することとしました。

次に、イに示しました全日制の普通科におけるコース、専門学科および総合学科で推薦を実施しますのは、前年度同様のご覧の20校であります。

ウに示しました定時制における実施校はございません。

次に、26ページをお開きください。（2）推薦入学の「推薦枠及び検査科目」についてです。先の教育委員会会議でご審議いただき決定された入学者選抜方針では、推薦枠について、コースを除く普通科は20%以内、普通科におけるコースや専門学科および総合学科は25%以内となっております。その選抜方針を受けまして、各学校において志望動機がより明確で、適性、興味および関心がより高いものを選抜し、学校の活性化を目指そうということで推薦枠を設定したものであります。

検査科目につきましては、今年度より小松商業高校の総合情報ビジネス科、鶴来高校の普通科、金沢商業高校の総合情報ビジネス科の3校が作文を取りやめることとしております。面接時間を十分に確保して、目的意識、学習意欲をこれまで以上にしっかりと見たい、評価したいためでございます。他の変更点はございません。

次に、27ページをお開きください。（3）推薦要件であります。ア「普通科の推薦入学」実施校につきましては、県が定める推薦要件としまして、a「推薦にふさわしい学力を有すること」、b「当該高等学校が定める推薦要件を満たすこと」が入学者選抜方針で規定されておりました、それを受けて、推薦入学を実施する学校からの推薦要件を27ページから28ページにわたって示してございます。

28ページ中ほどからイ「普通科におけるコース、専門学科及び総合学科の推薦入学」実施校につきましては、県が定める推薦要件を、a「志望する動機、理由が明確かつ適切であること」、b「適性、興味および関心を有すること」、c「調査書に優れた点や調書の記録を有することまたは当該高等学校が定める推薦要件を満たすこと」と示してございます。このうちcの中の「当該高等学校が定める推薦要件」につきましては、定めている高校はございません。

次に、29ページをご覧ください。2. 一般入学についてです。（1）の一般入学の学力検査以外の検査科目につきましては、全日制課程の学校、定時制課程の学校ともそれぞれ一覧表に記載されているとおりとなっております。今年度、小松工業高校、県立工業高校、宝達高校の3校が面接を取りやめることとしております。なお、面接および適性検査のいずれも実施しない学校は、小松高校、金沢泉丘高校、七尾高校など15校となっております。

次に、（2）傾斜配点実施校につきましては、前年度同様ございません。

【質疑】

(新屋委員)

推薦枠は専門高校で25%という上限になっているのですが、これは他の県だとどれくらいになっているのか、情報がありましたら教えていただきたいです。25%ということは、4人に1人を推薦で採ってしまうことになるわけですが、かなりの倍率があって、そこから採る場合はいいとして、そのあとの一般のところでは定員があまり芳しくないところがあると、どうなのかなと思ったりもします。25%が妥当なのかどうかということ、他県の状況等も分かっていたら教えていただきたいです。

(江尻教育次長兼学校指導課長)

手元に他県の情報がありませんので、確認してお知らせいたします。石川県は、推薦枠については、かつて50%という時代もありましたが、その時々的人数を見ながら定めてきています。他県の状況をもう少し鑑みてという視点も頂きましたが、全体的には生徒数が減少してきているという状況があります。いろいろな観点で情報を集めながら、どんな割合が妥当か見ていきます。また、それぞれの学校の学校長も地域の状況や生徒・保護者の状況を見ながら判断していますので、相談をしながら決めていきたいと思っております。

(江尻教育次長兼学校指導課長)

平成31年度の情報ですが、富山県の推薦入学による募集人員は、専門学科では定員の50%以内、総合学科は40%以内、国際科は40%以内。普通科に設置されている各コースについては50%以内というような枠の中で、各高等学校の学校長が決めていくとなっております。福井県は、15～45%の範囲で各高等学校長が申請しています。

報告第3号 令和3年3月石川県公立高等学校卒業生の進路状況について（江尻教育次長兼学校指導課長説明）

初めに全日制課程についてですが、卒業生は6,859名で、前年より381名減少となっております。うち、大学・短大進学者は3,798名で、卒業生全体に対する割合は55.4%、前年と同じ割合となっております。なお、国公立大学への進学者は1,517名で、卒業生全体の22.1%、前年より1.3ポイント増加しており、6年連続で増加傾向にあります。また表にはございませんが、県内大学への進学者の数は、進学者全体の3,424名のうちの1,691名で、割合としては49.4%。昨年、一昨年2年連続で50%を超えておりましたが、県内大学への進学者数は、今年度は少し下回っております。

続きまして、一方、就職の方でございますが、1,610名。卒業生全体に対する割合は23.5%、前年より1.4ポイント減少しております。

次に、真ん中の段の定時制課程についてですが、卒業生は117名、前年より15名減少となっております。大学・短大進学者は16名で、前年より8名増加、7.6ポイント増加となっております。就職者は31名で、前年より32名減少、21.2ポイント減少となっております。就職希望者が少なかったと聞いております。

続いて、通信制課程ですが、卒業生は139名で、前年度より25名増加しております。大学進学者は38名、前年より16名増加、8.0ポイント増加したことが特徴です。大学進学希望者が多かったと聞いております。

以上、まとめますと、進学につきましては、全日制課程において国公立大学への進学者が増加、定時制課程におきましては大学・短大への進学者が増加している。通信制課程でも大学への進学者が増加しているということです。

就職につきましては、全日制課程、定時制課程、通信制課程で卒業生数に占める割合も減少しましたが、公立高等学校の3月末の就職内定率が99.3%と、11年連続で99%台の結果となりました。新型コロナウイルス感染症の影響で選考開始が1カ月後ろ倒しになり心配もいたしましたが、この就職内定率の高さは、生徒や学校教職員の頑張りはもちろんですが、多くの関係機関にご協力いただき、連携による支援策の成果と考えております。

全日制、定時制、通信制のいずれの学校におきましても、生徒、保護者の希望に応えるべく、学習指導、進路指導に力を尽くしているところでありまして、県教委としましても、今後も、生徒が主体的に進路を選択できるような、適切な職業観・勤労観を育成する等、キャリア教育の充実を図り、関係機関との連携・協力を進め、学校の支援に努めてまいりたいと考えております。

（眞鍋委員）

定時制課程のその他の方の割合が35%で、対前年13.8ポイント増ということで、就職の希望者が少なかったというお話もありましたけれど、その他の方々がどうなっているのかが気になります。通信制課程の方も37.4%の方は進学も就職もされないということで、どういう対応をされているのかお聞かせ願えればと思います。

(江尻教育次長兼学校指導課長)

定時制課程のその他の方の内訳、41人となっておりますが、一時的な労働、アルバイト、そういう方が11人で25%ぐらいです。ほかに、体調が悪く、今回はチャレンジできなかったという方、あるいは自宅浪人、就職活動をまだ続けている方が数人ずつおります。また、就労支援の施設などに行っている方もいます。あまりみんなが閉じこもっているということではなく、それぞれの状況の中で前を向いて進んでいってほしいというふうに理解しております。通信制もそうです。一時的なお仕事や、自宅浪人、就職活動を続けている方の人数が多いと受け止めています。

(高野委員)

全日制課程の就職者なのですけれども、県内の就職者が対前年比196減っていますよね。一方で、専修や各種学校入学者が、対前年で見るとここだけすごく増えています。就職の関係がなくて専修学校に行ったと捉えればいいのですか。

(江尻教育次長兼学校指導課長)

県内の就職者というのは、本社が県内にある会社を対象としており、学校の方での全体の求人枠が随分減ったとか、そういった印象はありません。

また、今ほどおっしゃった専修学校については、入学者数の多い専門学校の分野としては、理容・美容、あるいは看護関係、あるいはクリエイター、IT関係、あるいはペットやお菓子、そういった分野の入学者数が増えている傾向が見られました。比較的、国公立も増えているということで、少しコロナの影響もあって、地元にいようというような動きもあったように思いますので、地域のエリアの中で自分の興味・関心を持ったところに進んだというふうに考えています。

(高野委員)

別に、コロナの影響で就職が減って、それで専修学校に行ったということはないということですよ。

(江尻教育次長兼学校指導課長)

はい。

(塩田教育次長)

コロナの影響で就職者が減って専門学校へ行く生徒が多くなったという分析は、それを裏付ける根拠もないですし、我々はそういった捉え方はしておりません。ただ、県内就職者の数が若干減っているようには見えますけれども、例えば就職者全体に占める県内の割合だけで見ますと、おとしが91.9%、昨年が92.3%、今年が91.2%なので、大体91~92%のあたりで変動していますので、特に県内の就職が減ったという捉え方はしなくてもいいのかなと思っています。それから就職の方も、コロナの影響などが心配されましたが、学校を回って校長先生のお話を聞いていると、意外と製造業などの求人も多くて、例年から比べて若干求人の数が減ったという企業さんもありますけれども、総じて例年並みの求人に来て、就職も非常に良かったと聞いており

ますので、高校生については、コロナの影響で何か物事が大きく変わっているという状況はないと思っております。

(徳田教育長)

去年、非常にコロナということで日程も後ろ倒しになったので、我々も夏以降、大変心配しておりました。しかし、石川県の場合は、前の年とほぼ同じような状況です。これは、石川県の場合は、ものづくり立県と言われて、ものづくり企業が多いということが、こういった基盤になっているのではないかと思います。会社ごとに見ると、例えば例年4名求人を出しているのだけれど3名になっているという企業がありますけれども、総じて、有効求人倍率で言うと2倍を超えていたので、就職できずに困っていたから、それなら専門学校に行こうという声は皆無だと思えます。恐らく、この学年がそもそも就職を希望する割合が前の学年に比べて少し少なかったのかなと思われます。コロナというのがマイナス要因になるかなと思って毎月毎月心配していたのですが、それでもないということで、先ほど言いました、99%を超える就職率を達成させていただいたということで、本当に企業の皆さん方に感謝したいと思います。また、高校の指導の担当者が例年以上にきめ細かく生徒さんに指導されたということをいろいろなところから聞いております。今年も、財務局の発表によると製造業は上向きになっていると非常に明るいニュースも飛び込んできております。去年も心配していましたが、恐らく今年は去年とちょっと状況が、ある意味では企業の環境が少し変わってきているのではないかと思いますので、しっかり良い人材を、各学校からそれぞれの企業に卒業生を送っていきたいと思っております。

(新家委員)

全日制過程の中で卒業者が対前年で381人減ったというのが、この381人が多いのか少ないのかどうか教えていただきたいです。3年間で卒業できなかった子の推移というのは、今、分かりますか。

(江尻教育次長兼学校指導課長)

今は手元にございません。

(新家委員)

分かりました。後でもいいので、教えていただきたいのですが、対前年で381人減っているというのは、感覚的に多いかなと思ひまして、子どもの数が元々これだけ減っていて、卒業者が減ったのならいいのですが、いろいろな事情で3年間で卒業できない子が増えていなければいいなということで、何らかの機会にまた教えていただければ結構かと思ひます。

(徳田教育長)

以降の審議は非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第 19 号 令和 4～6 年度使用中学校用教科書（社会（歴史的分野））石川県教科用図書選定資料について

江尻教育次長兼学校指導課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 20 号 令和 4 年度用一般図書選定資料について

江尻教育次長兼学校指導課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 21 号 石川県産業教育審議会委員の委嘱（任命）について

江尻教育次長兼学校指導課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 22 号 石川県社会教育委員の委嘱（任命）について

清水生涯学習課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 23 号 石川県生涯学習審議会委員の委嘱（任命）について

清水生涯学習課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

・閉会宣言

徳田教育長が閉会を告げる。